

建築・社会システムに関する連続シンポジウム <第13回>
日本の建築基準の目指すべき目標像を探る -海外の状況と経験を踏まえて-

日本の建築基準（単体規定）及びその運用に関して改善・再検討を要すると思われる重要な課題をテーマとして選定し、海外の専門家からそれについての現状や取組みの経験に関する報告を聴くとともに、日本と海外との状況の違いを踏まえつつ、日本が目指すべき目標像とその実現に必要な条件について参加者と意見交換を行う。

<主催> 日本建築学会（都市・建築にかかわる社会システムの戦略検討特別調査委員会）

<協力> 建築・住宅国際機構

日 時: 2011年12月17日(土) 13:00~17:30

場 所: 芝浦工業大学芝浦キャンパス 801 教室（東京都港区芝浦3-9-14）

司 会: 五條 渉（(独)建築研究所）

記 録: 竹市 尚広（(株)竹中工務店）

1. 主旨説明 南 一誠（芝浦工業大学 都市・建築にかかわる社会システムの戦略検討特別調査委員会委員長）

都市・建築にかかわる社会システムの戦略検討特別調査委員会の設置目的及び活動状況を紹介するとともに、本シンポジウムの開催主旨について述べる。

2. 主題解説 五條 渉（前出）

都市・建築にかかわる社会システムの戦略検討特別調査委員会の建築基準のあり方検討WGの活動状況を紹介するとともに、これまでの同WGにおける検討を踏まえ、日本の建築基準に関する状況や課題について説明するとともに、講演テーマと講演者の紹介を行う。

3. 講演（テーマ、講演者とも現時点の予定であり、変更の可能性あり）

- ① 建築規制の目的・意義と国民・産業界の期待：Brian Meacham（米WPI*1教授）
- ② 目的指向型基準の導入のインパクト（狙いと評価）：Guy Gosselin（カナダ研究評議会建設研究所（NRC-IRC））
- ③ 特殊な技術・工法（代替解）の基準適合性の確保と関係主体の役割・責任：John Carson（オーストラリア；前 ABCB*2 委員）
- ④ 基準適合性の確保のための措置（Leaky Building 問題の経験から）：Mike Stannard（ニュージーランド建築住宅省）
- ⑤ コメント1：各講演テーマに関する日本の現状と課題：平野吉信（広島大学）
- ⑥ コメント2：オーストラリアにおける経験を踏まえた各講演テーマに関する見解：Lam Pham（オーストラリア；CSIRO*3）

*1: Worcester Polytechnic Institute

*2: Australian Building Codes Board

*3: Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation

4. 討論

5. まとめ 杉山 義孝（(財)日本建築防災協会）

参加費 (資料代を含む。) 会員: 1,000 円 会員外: 1,500 円 学生: 500 円

定員 100 名(変更の可能性あり)

その他 海外の講演者の講演は、英語で行われます(逐次通訳付き)

申込方法 FAX または e-mail にて催物名称・会員番号・氏名・勤務先・電話番号・e-mail アドレスを明記の上お申込下さい。定員に達した場合は、お断りする方のみご連絡します。

申込み・問合せ 日本建築学会事務局教育・普及事業グループ 酒井

e-mail: sakai@aij.or.jp TEL03-3456-2051 FAX 03-3456-2058